

新人研修での学びと
これから実践したい看護

5 階病棟看護師

あることとは

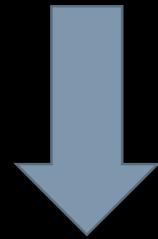
- 私が中学二年のとき、祖母がトイレで倒れた
- すぐに救急車を祖父が呼ぶ
- その時、救命士を間近で見ることになった
- 救命士は一刻も早くということだろうか...
- 悲しいことに、祖母をただ運んでいった
- その時、私は彼らの心のなさに幻滅



心に寄り添える「看護師」を志す

新人研修で印象に残ったこと・学び

- 医療の基盤は信用であり、そして信頼であること
信用...この人なら悪いようにしないだろう
信頼...この人なら味方になってくれる



信用なくして、信頼は得られない

と、いうことである。

信用を得るために

- コミュニケーション

知覚や感情、思考の伝達を行う、その人と人との間で
《意志の疎通》が行われたり、
《心や気持ちの通い合い》が行われたり、
《互いに理解し合う》こと



職は違うが、このコミュニケーションがなかったために
救命士に対し信用を無くし、信頼を得られなかった

つまり...

- ひとつひとつの声がけ...痛いところはないかなど
- 単純作業にしない...ただやるだけの作業にしないなど
- 印象で拒否されない...身だしなみや表情、態度など
- 優しさ...寒がっていたら布団をかけるなど
- 患者中心の医療実施...患者のニーズ重視するなど
- アサーティブ...誠実で、素直で、対等で、自己責任

こんな看護をしていきたい

私は
患者が怒っているとき、
悲しんでいるとき、
楽しんでいるとき、
悔やんでいるとき、
辛いとき、不安なとき、
寂しいとき、痛いとき…

どんな時でも患者の心に
寄り添い笑顔を忘れず、
コミュニケーションを重視
した看護をしていきたい。



終わりに

- 目標ではないが、
そうした看護を行い、
患者の心に残れるように...
患者の人生に残れるように...
相手の心に残る...

想い手(思い出)

となるつもりでいきたい